

# 決戦下の幼児保育者諸君へ

— 陣 友 音 信 (二) —

倉 橋 惣 三

○戦時の新しい職域は素より、従来からの職域にある人と雖も、此の決戦下、平時と同じ心で事に當つてゐるものはありません。一見、常に變らぬさまに行はれてゐる保育事業も亦、大にそうでありませぬ。たゞに心構へだけが同じでないのみならず、事情も條件も勤務の實際も、決戦下容易ならぬ變化があります。その意味で、慰問といふやさしげなことでもなく、又激勵といふきびしい言葉でもなく、眞に心からなる音信を、決戦下の陣友諸君に、送らすにあらせませぬ。

○決戦下、皇國の幼児をその心身において護らなければならぬ必要は急激に増大しました。敵の空襲に備へなければならぬ防空都市において、幼児疎開の必須の叫ばれるのも、眞に必要な場合幼児の集團形態の休止の指令せられるのも、その最も顯著なあらはれであります。共に第二國民の貴重なる生命保護のためには已み難き必要であり、積極的に執られなければならぬ指導方策であることは論を俟ちませぬ。そのためには、幼児保育者の従来通り

の任務振りには變化を來させようとも、眞に幼児を護るために、その推進と共に、新しい参加・協力とが意圖せられなければなりません。即ち幼児疎開の適切なる方法、疎開後の指導、又集團形態休止後の諸問題等、皆之れ幼児保育者の關心であり憂慮でもあるのであります。しかも之等の研究事項は次の音信の機会に譲り、今日は、今現に身を幼児保育の任務においてられる陣友諸君への心の音信に限りませう。何はともあれ、常在戦場のお互同志として。

○現に幼児はまだ澤山都市町村に居ります。その保育に當つてられる方々は、幼稚園の方々、保育所の方々、戦時託児所の方であります。その施設の名稱は異つてゐても、幼児保育たることに、殊に戦時保育たることに別はありません。先づ戦時託児所が特に戦時的要請に基いて起つたものであることは申すまでもなく、その開設主旨の至當緊急なことも申すまでもありません。即ちその開設主旨の特色は受託幼児の家庭が戦争への直接勤務者で

あることにあります。わけても母が軍需増産のためにその子の保育の時間をもたない場合、その子のために母のために、受託保育を必須とするのであります。戦争の緊急要員として充分に働いて貰ふために、その子の終日保育を引受けることは一日も忽せに出來ぬことであります。但しそれが、幼児達の生活保護に止まらずして教育保護即ち保育でなければならぬことは忘れてなりません。次に特に戦時と銘をうつと否とに拘はらず、社会的に必要なあるところに行はれる常設乃至季節保育所の重要さ、殊に戦下に加へられてゐる重要さは言ふまでもありません。必ずしも戦時において新たに起つたのではないために、特に特殊施設とされないだけで、戦時下戦時事業でないものはないのであります。更に此の意味において、最も特殊施設の感を與へないものは幼稚園であります。戦時下の幼稚園が戦時幼稚園であること、あるべきことは素よりであります。いづれにせよ、いづれも皆、戦時下に戦時下幼児の保育の緊要任務に當つてゐるのであり、私どもの常に一列にその勞を多とし、その精神に深き敬意を表してゐるのであります。

○教育施設と厚生施設の論など今更めて申しません。たゞ、幼児の保育に限りこの二つが離れて存するものでないことを、萬一離れたらいつれも眞の保育でないことを一言して置けば足りません。更にまた、戦時下の保育施設に特に厚生を重視しなければならぬことと、それと同時に、教育の方面の一層重視されなければならぬこととを言ひ添へて置けば足りませう。

○戦時保育の同僚諸君の勞を、特に多とし密におねぎらひもせず

にあられないのも此の點にあります。そのために、幼稚園もその保育時間を延長して早朝より夕刻に至る必要がありませう。幼児の身邊の世話から衛生榮養の注意まで一段と周到でなければなりません。幼稚園は幼児の心の教育の場所であるなどと濟ましてはゐられません。託兒所も亦、その家庭生活と共に家庭教育の缺陷の大を思ふにつけて、その保育上の任務を常に厚生方面に止めてはゐられません。幼稚園の保母さんも託兒所の保育婦さんも、戦時下の勞や實に同一に實に多大と申さなければなりません。私はいづれの方をも差別なく尊敬して已みません。

○但し、保育者の職域よりは、何んといつても、幼児を相手として、その靦顔る和かに、柔かであります。戦時下の他の勤務に比して、その嚴しさも劇しさもないやうに見えます。また或は多少そうした實際もあるかも知れませんが。しかしそれは、幼児といふ相手に即しての側においてのことでありまして、戦時下保育必須の信念と戦時下保育報國の誓願と、即ち保育者の精神と意氣との側においては、決してゆるやかな日々々々ではないのであります。殊に今日の條件下においてそうであります。それを最もよく知つてゐる一人として、私は自らをあなたの方の友として自認してゐます。心なき人が何んと言はうとも、此の同僚からの音信を受けて下さい。

○職域奉公といふことは、恐らく或る制限内においてのみ通用されることかも知れません。事態の平常を失ひ、必務の切迫を極むるに及んでは、職域も亦、それに應じて轉廢せられなければなりません。私ども亦、より緊急の國家の要請に應じては新たに起た

たなければなりません。しかし、その覺悟をしつかりと忘れない上において、今の私どもは、自己の職域を以て國家、殊にその決戰體制の一翼に盡し得ることを感謝しなければなりません。私どもは嘗て何んの主旨と精神とを以て此の職域に入り來つたかは、どうでもよろしい。今日は、この決戰下の奉公の重要職域として、新たにこゝに身を置かせて頂いてゐるのであります。

○形式はどう變りませうとも、方法はどう變りませうとも、保育奉公の實の存するに信する限り、私どものこの職域奉公の心は變りません。古い理念や昔の理想の追求者としてとなく、此の新らしい國家の現實に存する奉公の誠を以て、ごこの一隅でとも、ごんな不完全な設備の下にあつても、國の大切な幼兒をその心身一體において護り育てつゞける貴い任務に専心しませう。事情と條件とは、ごの職域でも苦しくなつてゐます。今日の保育は昔日の「楽しい」保育ではありません。しかもその苦しい中にこそ「戦ふ保育」があるのであります。

○私は、全國の戦ふ保育の同僚諸君に、その老勇將にも若武者にも、同職域同奉公の友人として、新たな堅き信頼を捧げ、常に常にその御健康を祈つて居ります。

○たゞ、この音信の筆を廻くに當つて、私の頭からどうしても消し難いのは、戦時の或る事情のために、心ならずして、保育事業から暫らく身を轉ざられ或は退かれた友人諸君の胸中でありませう。その人々が、殊にその中でも若い人々が、今も尙保育の道を慕ひ、保育奉公の一念を捨て兼ね、情を傾けて、時の歸來を俟たるゝの訴へを聽く度びに、私は斷腸の思ひとは此の事かと思はざるを得

ません。その中には、私の口から初めて保育の貴さを聽き、私のすゝめによつて保育の感激に身を投じた人々も少なくありません。私はその人々に何んと音信しませうか。言ふところを知らないものであります。

○更に特別の音信を差上げなければならないのは、北九州、西九州、山陰、西中國の幼稚園の方々へであります。空襲の時刻は夜間或は夕暮であり、又多分幼稚園はお休みのところも多かつたと思ひますから、幼稚園での戦災を受けられた方はなかつたと思ひますが、それにしても、先生方常々の御心勞の一段と深いことをお察しせずにはられません。身を以て幼兒を護る覺悟は全國の幼兒教育者一統であります。既に空襲を経験せられた土地の方々へこそ、御見舞——そんな平時の如き生やさしい言葉でなく、力を籠めて戦線への御慰問状を呈します。御健闘と御安泰とを祈つて已みません。(八月二十二日)